



## 関西支部 2/8「第102回醗酵学懇話会」報告

底冷えの残る2013年2月8日、酒処として名高い京都市伏見区に位置する月桂冠昭和蔵工場にて日本生物工学会関西支部主催の第102回醗酵学懇話会が開催されました。当日は学生20名を含む、およそ60名の方にご参加いただきました。この場をお借りして会場を快くご提供いただいた月桂冠株式会社の皆様、演者の先生方、参加者の皆様、ならびに、関係者各位にお礼申し上げます。

まず、京都大学大学院農学研究科応用生命科学専攻の阪井康能先生に「C1 酵母による異種遺伝子発現を制御発酵から考える」という演題でご講演いただきました。メタノール資化性酵母を宿主とした場合の異種遺伝子発現に関して、多岐にわたる話題をご提供いただきました。生産性には発現させたタンパク質の翻訳後の過程も重要であるとの考えから、オルガネラ輸送やレドックスの制御も視野にいれた発酵生産技術を開発されているとのことで、これまでである意味運任せであったタンパク質の発現系に科学的なメスが入り、より戦略的な手法が確立されるのではないかと期待が膨らむものでした。

次に、月桂冠株式会社の戸所健彦先生に「麹菌が生産する環状ペプチド—デフェリフェリクリシン—の大量生産技術の開発とその応用」という演題でご講演いただきました。お酒に色を着けてしまうことで問題となっていた色素を、逆転の発想で機能性食品素材として開発しようとした試みから、大量生産を達成するまでの技術開発まで、非常に示唆に富む話題をご提供いただきました。また、鉄イオン錯体、および、鉄イオンを含まないペプチドの両者に、それぞれ別の機能性を発見されたとのことで、研究対象に対して広い視野をもつことの重要性を再認識いたしました。

その後、恒例の工場見学をさせていただきました。歴史ある酒蔵の生産現場を見学することで、酒造りの繊細さや面白さを、参加者一同改めて実感したことと思います。締めくくりの懇親会では、品評会用で市場には出回ることのないお酒を特別に振る舞っていただき、いつものように賑やかな交流の場となりました。本懇話会を世代間あるいは産学間での活発な議論の場としてご活用いただけたのであれば、主催者冥利につきます。次回、第103回醗酵学懇話会は8月を予定しております。多数のご参加をお待ち申し上げます。

(関西支部庶務幹事 岡澤 敦司)



月桂冠株式会社より川戸様（専務取締役製造本部長）からのご挨拶



京都大学 阪井康能先生



月桂冠株式会社 戸所健彦先生



講演会会場



工場見学



懇親会での原島会長による日本酒での乾杯